

厚生労働省「第3回 チーム医療の推進に関する検討会」 薬剤師、看護師らからヒアリングを実施

2009/10/14

厚生労働省の「チーム医療の推進に関する検討会」（座長＝永井良三・東京大学大学院医学研究科教授）は10月13日、第3回会合を開催し、初回、第2回に続いてヒアリングを実施した。

同検討会は、「経済財政改革の基本方針2009」（2009年6月23日閣議決定）において「医師と看護師等の間の役割分担の見直し（専門看護師の業務拡大等）について、専門家会議で検討を行う」とされたことを受け、日本の実情に即した医師と看護師等との協働・連携の在り方について検討するために設置されたもの。



永井座長

チーム医療の推進に関する検討会・検討課題	
医師、看護師等の役割分担について	
看護師等の専門性の向上について	
その他	(厚生労働省資料より)

調査審議事項として、現状で看護師には認められていない検査や薬剤の処方などの医療行為を、専門性の高い職務が可能な看護師にも担えるようにする「ナースプラクティショナー」の必要性も取り上げられている。

この日ヒアリングに招集されたのは、チーム医療の推進に意欲的な虎の門病院、近森病院、聖路加国際病院の3施設。

虎の門病院は、「約10年前に薬剤部でチーム医療を担当する新たな部門を創設し、以来薬の専門職としての薬剤師の役割を模索してきた。医師が最適な処方をするために薬剤師が医師を支援する形態を構築して役割分担している。適正使用が特に重要な抗凝固薬等は、医師と薬剤師とで院内投与プロトコルを作成し、薬剤師が医師の負担を軽減している」と報告した。

近森病院は、「医療スタッフの機能を絞り込んで業務を切り分けた。急性期をサポートするチーム、回復期をサポートするチーム、医師の周辺業務サポートのチーム、看護の質を上げるチームに分け、患者に接しない業務はできる限り外部委託にしている。業務内容が標準化すれば医療の質の向上と効率化につながる」と述べた。

看護師の職務の面からチーム医療を進めている聖路加国際病院は「特定分野での看護実践ができる認定看護師と、さらに高水準の専門看護師がそれぞれの専門性を発揮して活動している。また、看護師らのケアサポート、看護管理、スタッフ育成から患者への直接ケアに至るまで、複数の専門領域を網羅したスペシャリストであるリソースナースを設置。医師と対等に意見交換できる看護師が増えることを目指している」とした。

委員からの業務遂行に際してジレンマはないか、という質問に対して聖路加国際病院は「(ナースが専門に特化しているので、)自分の専門分野の中だけではやりきれないことがある、というジレンマはある。時間外に検討会を実施して解消するようにしている」と回答。近森病院は「コメディカルが多いので、看護師が調整係になってしまっていると感じる部分もある」とし、院内での具体的な取り組みに関しては、「医師がスタッフ個別に指示を出すのではなく、全チームに包括指示を出し各チームが考えて医療を提供する。クリニカルパスで包括指示を視覚化したけど、それでも処方重なるなどのトラブルがあるので、指示受け・指示出しの中でのジレンマもある。医師の口頭での指示も可視化する必要がある」と述べた。

協働に関して苦勞はないか、という質問に虎の門病院は「徐々に業務効率を進めてきたので、ドクターからの理解は得やすかった。モノ(薬)を対象にしていた薬剤師にとっては、連携は抵抗があったかもしれない」と答えた。

永井座長は「看護師の悩みと医師の悩みはそれぞれ違う。現場で起こっている問題を個別に聞いて考えたいと思い、ヒアリングを実施している。制度、人数、意識といった中の何が問題なのかを知ることが課題だ」と締めくくった。次回は11月2日開催予定。基本方針2009によると、来年3月までに具体策を取りまとめるとしている。